



社会福祉法人 一期一会福祉会

- ・手探りのスタート
- ・声掛け
- ・マッチング
- ・“聞けない”壁
- ・特性が重要
- ・お互い無理しない

精神・発達障害者数**3**名
全障害者数**8**名

個性や特性の“真の理解”が、継続就労につながる

DATA データ

採用までのプロセス

障害者就業・生活
支援センター

就労移行

職場実習

正式採用

利用した支援機関・制度

- 障害者就業・生活支援センター
- 特別支援学校
- 就労移行支援事業所

障害者の担当業務

- 調理補助
- クリーニング
- 介護補助

一期一会の理念を、障害者雇用にも活かして

県内に特別養護老人ホームやグループホーム、デイサービスセンターなどの老人福祉施設を幅広く展開する、社会福祉法人 一期一会福祉会。その名前の通り“一期一会”の出会いを大切に、サービスや取り組みをモットーにしています。

同福祉会が障害者雇用をスタートさせたのは平成22年。1人目の雇用は聴覚障害者でしたが、障害者に対する知識や経験がまったくない中での採用で、経営側も現場も手探りの状態だったと言います。その後、精神や知的障害者の雇用も開始され、現在では8名の障害者が各部署で活躍。人によって異なりますが、調理補助やクリーニング、介護補助などの業務を担当しています。

「現場では、コミュニケーションをとりやすい環境づくりに力を入れています。とくに精神障害のある方は、環境の変化への対応や、心の中の声を外に出すことが苦手な方が多いので、こちらからの声掛けを大切にしています」こう話すのは、事務次長の宮崎亮さん。

VOICE 現場の声



副理事長兼事務長
白井正和さん

現場のコミュニケーションが潤滑に

障害者の方が明るく元気に働く姿には、見習う部分が多いですね。とくに若い世代は良い刺激を与えてもらい、現場でのコミュニケーションづくりにも役立っていると感じます。



事務次長
宮崎亮さん

学びや気づきが多い、障害者雇用

障害者雇用を通じて、個性や特性の見極めがいかに重要かを学びました。こうした考えは健常者の雇用にも活かされ、法人全体の向上にもつながっていると思います。

聞けないことが、障害者との壁をつくっていた

ソフト、ハードの両面から障害者雇用を促進

一期一会福祉会が雇用を進める中で、最も難しかったのはマッチングの問題だったと言います。

「障害者雇用を始めたころは、相手を傷つけてしまうのではないかという思いから、面接時に障害やその症状に対して深く聞くことができなかったんです。でも、ある面接会で他の企業の面接を見て“本気で障害者の雇用を考えるなら、特性を深く知ることこそ重要だ”と、考え方が大きく変化しました。どんな仕事内容なら可能だと思うか、症状がある場合はどんな場面で出やすいか、またどうすれば落ち着くのかなどまで聞くようにしています。以前は“聞けない”ことで、逆に壁をつくっていたように感じます」と宮崎さん。

また事務長の白井正和さんは「お互い無理をし過ぎないというのも、障害者雇用のポイントだと思います。環境などを最初から整えるのは無理ですが、一つずつでも変化させられる柔軟さが重要だと感じています」と話します。

平成28年にオープンした「特別養護老人ホーム岩倉一期一会荘 花むすび」では、事務室など職員用のエリアもバリアフリー化するなど、同福祉会はソフトとハードの両面で障害者雇用に取り組んでいます。

社会福祉法人 一期一会福祉会

愛知県岩倉市北島町二本木7番地 TEL:0587-66-2110 FAX:0587-66-2800
<http://www.ichigoichie.or.jp>